

～地方都市の生活を支える抜本的な治水対策の推進～

○ 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、利根川水系小貝川においても、事前防災対策を進める必要があり、以下の取り組みを実施していくことで、国管理区間においては、小貝川本川の堤防が決壊し、流域で甚大な被害が発生した戦後最大の昭和61年8月洪水と同規模の洪水に対して、流域における浸水被害の軽減を図る。

■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・堤防整備、河道掘削、洪水調節施設の整備、築堤、河道改修、河道掘削、遊水地整備
- ・土砂災害対策
- ・水田貯留（田んぼダム）・雨水貯留施設整備・透水性舗装・浸透枟 等

■ 被害対象を減少させるための対策

- ・立地適正化計画に基づき水害リスクの低い地域への居住誘導区域設定
- ・開発の規制や居住の誘導に有効な多段階な浸水リスク情報の充実 等

■ 被害軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・危機管理型水位計、簡易カメラの設置
- ・マイ・タイムライン普及促進
- ・広域避難計画の策定及び訓練
- ・ハザードマップの作成・周知
- ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進
- ・地域防災リーダーの育成
- ・水防災意識強化月間における集中的な普及・啓発活動の実施
- ・防災教育や防災知識の普及
- ・水防体制の強化
- ・緊急排水計画策定及び訓練
- ・水害リスク空白域の解消 等



● グリーンインフラの取り組み 詳細次ページ

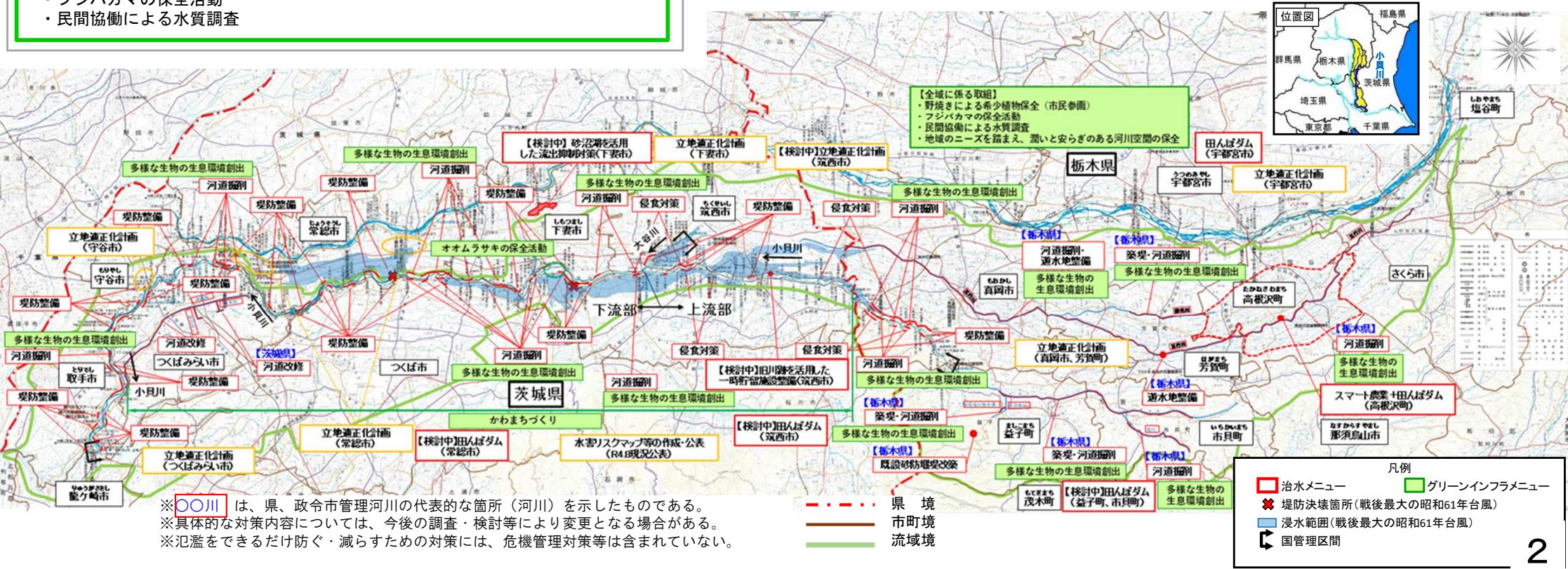


●グリーンインフラの取り組み『水辺の環境や風景を楽しみながら巡る、魅力あるサイクリングネットワーク構築による地域振興』

➢小貝川では、中・下流部の湿地や河畔林をはじめ、貴重な動植物の生息環境が多く残っている。治水・利水との調和及び流域の自然環境・社会環境との調和を図りながら、順応的な管理により自然環境の保全と適切な河川利用の促進を図る。

➢「茨城県総合計画」では、サイクルツーリズムを含む観光振興により、観光消費額を増加させることを目標に掲げている。これに寄与できるよう、概ね令和4年度までに、周辺自治体と連携したかわまちづくりの軸として、水辺の環境や風景を楽しみながら巡ることを目的としたサイクリングネットワーク構築のため、側帯等を活用したりバースポット11箇所の整備を進めるなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進する。

- 治水対策における多自然川づくり
 - ・多様な生物の生息環境創出
- 魅力ある水辺空間・賑わい創出
 - ・かわまちづくり（鬼怒川・小貝川）
- 自然環境が有する多様な機能活用の取組み
 - ・野焼きによる希少植物保全（市民参画）
 - ・オオムラサキの保全活動
 - ・フジバカマの保全活動
 - ・民間協働による水質調査



●小貝川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。

【短期】本川は下流域より堤防整備、河道掘削、貯留施設の整備を実施し、支川では河道改修・遊水地整備を実施。
安全なまちづくり(立地適正化計画に基づく防災指針の検討等)の策定

【中期】本川下流域の堤防整備、河道掘削を実施。

【中長期】本川上流域の堤防整備、河道掘削及び洪水調節施設の整備を実施。
内水被害軽減対策(雨水貯留施設の新設等)等の流域における対策、タイムラインの活用等を実施。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	下流域の堤防整備、河道掘削 等	下館河川事務所・茨城県	[進捗バー] 堤防整備・河道掘削完了		
	上流域の堤防整備、河道掘削 等	下館河川事務所	[進捗バー] 堤防整備・河道掘削完了		
	洪水調節施設の整備	下館河川事務所	[進捗バー] 洪水調節施設整備完了		
	支川の築堤、河道改修、河道掘削、遊水地整備 等	栃木県・茨城県	[進捗バー] 五行川 芳賀遊水地完了		
	森林整備	栃木県	[進捗バー]		
	雨水貯留施設整備・透水性舗装・浸透枳	宇都宮市・真岡市・さくら市・益子町・市貝町・芳賀町・高根沢町・龍ヶ崎市・下妻市・常総市・取手市・つくば市・守谷市・筑西市・つくばみらい市	[進捗バー] 旧川跡を活用した貯留施設整備(筑西市)		
被害対象を減少させるための対策	「安全なまちづくり」に向けた取組 立地適正化計画に基づき水害リスクの低い地域への居住誘導区域設定	(作成済)宇都宮市・真岡市・芳賀町・下妻市・常総市・守谷市・つくばみらい市 (作成中)筑西市	[進捗バー] 立地適正計画策定(筑西市)		
	開発の規制や居住の誘導に有効な多段階な浸水リスク情報の充実(「多段階の浸水想定図」及び「水害リスクマップ」の作成・公表)	下館河川事務所	[進捗バー] 「現況」を公表		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	マイ・タイムライン普及促進・ハザードマップ作成、周知・地域防災リーダーの育成・防災教育や防災知識の普及 等	下館河川事務所・栃木県・茨城県・宇都宮市・真岡市・さくら市・益子町・市貝町・芳賀町・高根沢町・龍ヶ崎市・下妻市・常総市・取手市・つくば市・守谷市・筑西市・つくばみらい市	[進捗バー]		
グリーンインフラの取組	多様な生物の生息環境創出	下館河川事務所、栃木県	[進捗バー] 河道掘削		
	かわまちづくり	下館河川事務所、かわまちづくり協議会(筑西市、結城市、八千代町、下妻市、常総市、つくばみらい市、守谷市)	[進捗バー] リバースポット整備完了		
	野焼きによる希少植物保全	地域住民	[進捗バー]		
	オオムラサキの保全活動	下妻市	[進捗バー]		
	フジバカマの保全活動	地域住民	[進捗バー]		
	民間協働による水質調査	沿川住民	[進捗バー]		

■河川対策
 全体事業費 約508億円
 対策内容 堤防整備、河道掘削、洪水調節施設の整備 等

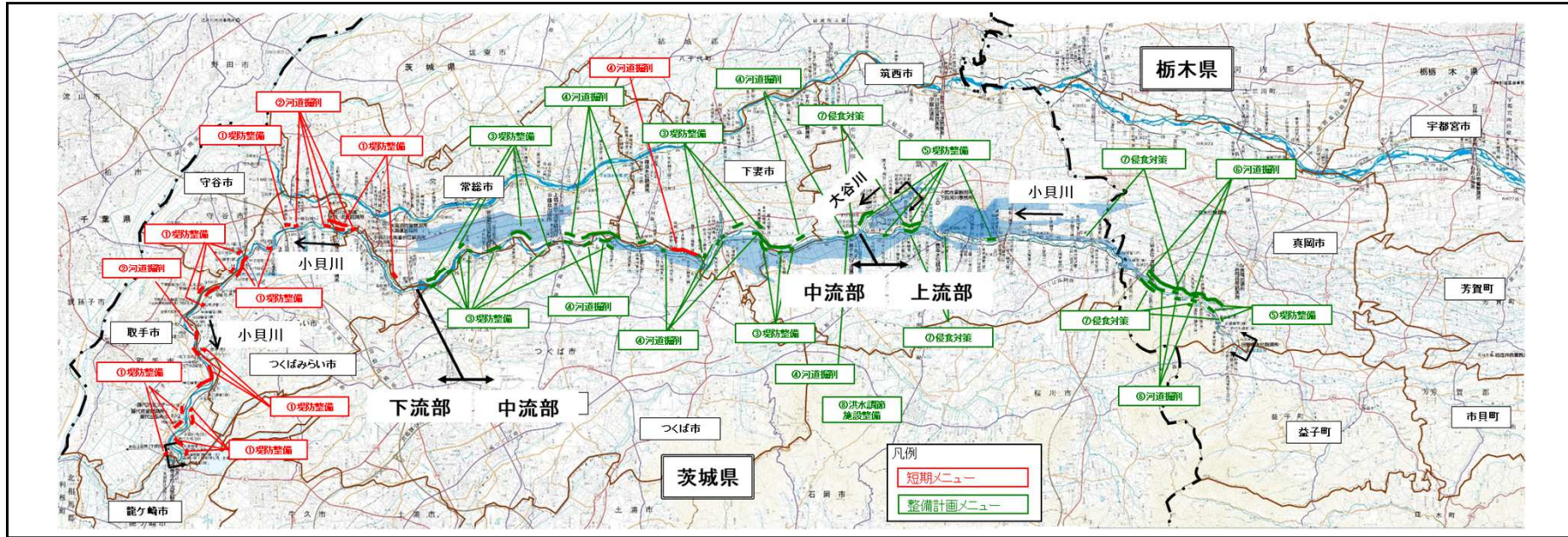
■下水道対策
 全体事業費 約42億円
 対策内容 雨水貯留施設整備 等

気候変動を踏まえた更なる対策を推進

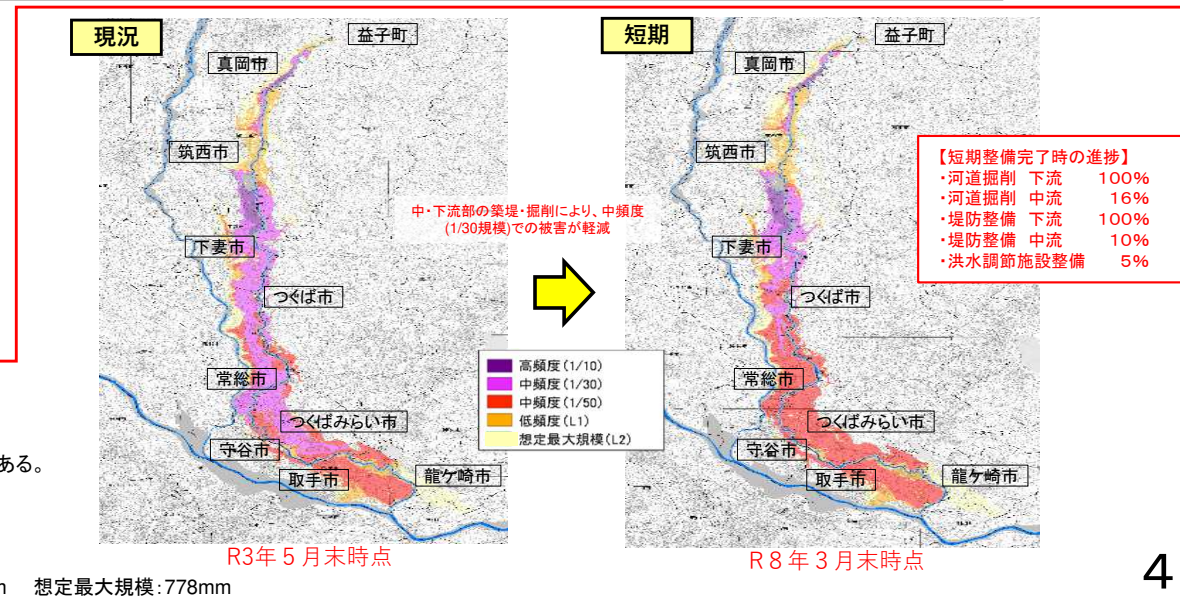
※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。
 ※■■■■■:対策実施に向けた調整・検討期間を示す。

○支川大谷川合流点より下流までの堤防整備、河道掘削・樹木伐採が令和6年度までに完了することで、支川大谷川合流点より下流部において河川整備計画目標流量を安全に流下させることが可能。

短期整備効果：河川整備率 約53%→約58%(整備計画規模)



対策内容	区間	工程		
		短期	中期	長期(～R31年)
②河道掘削	下流	100%		
④河道掘削	中流	16%	100%	
⑥河道掘削	上流			100%
①堤防整備	下流	100%		
③堤防整備	中流	10%	100%	
⑤堤防整備	上流			100%
⑦侵食対策	中・上流			100%
⑧洪水調節施設整備	中流部	5%		100%



【短期整備完了時の進捗】

- 河道掘削 下流 100%
- 河道掘削 中流 16%
- 堤防整備 下流 100%
- 堤防整備 中流 10%
- 洪水調節施設整備 5%

注：洪水浸水想定区域図作成マニュアル(第4版)に基づき、小貝川(直轄管理区間)が氾濫した場合に、浸水深が0cmより大きい浸水範囲をシミュレーションにより予測したものである。
 注：想定最大規模については、平成29年3月に公表した洪水浸水想定区域図である。
 注：外水氾濫のみを想定したものであり、内水氾濫を考慮した場合には浸水範囲の拡大や浸水深の増大が生じる場合がある。
 注：国直轄事業の実施によるものであるが、今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

算出の前提となる降雨
 小貝川流域の3日総雨量
 高頻度(1/10):198mm 中高頻度(1/30):247mm 中頻度(1/50):270mm 低頻度(1/150):318mm 想定最大規模:778mm

<p>戦後最大洪水等に対応した河川の整備（見込）</p>  <p>整備率：58% (概ね5か年後)</p>	<p>農地・農業用施設の活用</p>  <p>1市町村 (令和4年度末時点)</p>	<p>流出抑制対策の実施</p>  <p>93施設 (令和4年度実施分)</p>	<p>山地の保水機能向上および土砂・流木災害対策</p>  <p>治山対策等の実施箇所 100箇所 (令和4年度実施分) 砂防関連施設の整備数 0施設 (令和4年度完成分) ※施行中 ○施設</p>	<p>立地適正化計画における防災指針の作成</p>  <p>2市町村 (令和4年12月末時点)</p>	<p>避難のためのハザード情報の整備</p>  <p>洪水浸水想定区域 575河川 (令和4年9月末時点) ※一部、令和4年3月末時点 内水浸水想定区域 1団体 (令和4年9月末時点)</p>	<p>高齢者等避難の実効性の確保</p>  <p>洪水 589施設 避難確保計画 土砂 55施設 (令和4年9月末時点) ※一部、令和4年3月末時点 個別避難計画 【集中中】 (令和5年1月1日時点)</p>
--	---	---	--	--	---	--

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

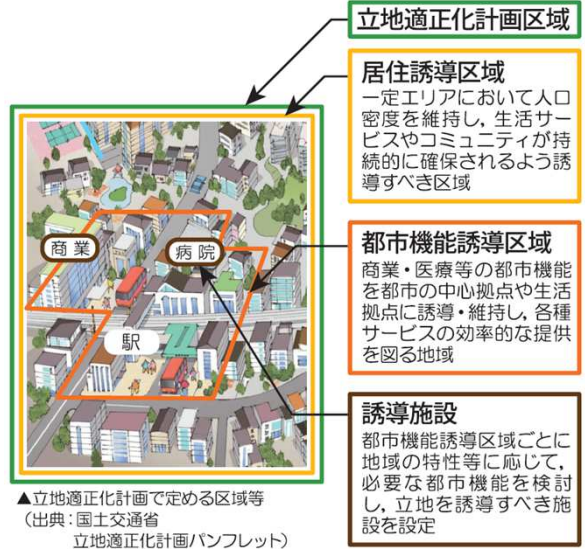


田んぼダムの落水口
(茨城県事業、常総市内設置)

○農耕地の対策メニューとして水田貯留の「田んぼダム」がある。小貝川では複数の市町において導入及び検討が進んでいる。
【令和4年度の実績】

- ・茨城県事業として常総市内で26ha実施
- ・宇都宮市で事業継続しており、実績を集計中(令和3年度末時点625ha整備)
- ・今後実施に向けた検討を行っている地方自治体が5箇所(常総市、筑西市、益子町、市貝町、高根沢町)

被害対象を減少させるための対策



○居住誘導区域等を定め、住民の居住エリアを誘導する施策である。小貝川では複数の市町において導入及び検討が進んでいる(現在までに7市町で導入済み)。
【令和4年度の実績】

- ・今後実施に向けた検討を行っている地方自治体が1箇所(筑西市)

○鬼怒川・小貝川の水害リスクマップ及び多段階の浸水想定図の現況を平成4年8月31日に公開

被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策



○令和4年度の取り組みとして、取手市和田地区の自主防災会に対して「防災講座」を開催し、鬼怒川の歴史・特性や水害・水防等について説明した。その他に下妻市東部中学校で「マイ・タイムライン作成講座」を開催、下館河川事務所がマイ・タイムラインリーダースキルアップ講座をWEBで開催した。

